

温排水対策事業リモートセンシング調査 ー抄録ー

菊谷 尚久・白取 尚実

発 表 誌 名

平成元年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（大間地点）

抄 録

温排水の排水が予想される前面海域の水産資源の高度利用を図るため。水温分布情報を人工衛星NOAAから、漁況情報を標本漁船から入手した。

1. 水温分布情報

昭和63年12月から平成2年1月にかけて、人工衛星NOAAから入手した鮮明な画像を51枚保存した。鮮明な画像は冬季では少なかった。

2. 標本船調査

ア. スルメイカー本釣り…（隻数：11隻 調査期間：平成元年1月、6～11月）

1月の操業はすべて前沖であった。6～11月では水温の上昇とともに操業場所が異なり、日本海では能登半島から積丹半島へ、8月以降では三沢・八戸沖、大畑・尻屋沖が主漁場となっている。

漁獲が多かったのは、8～11月の三沢・八戸沖で、ここだけで全体の47%の漁獲を揚げている。

イ. 釣り・刺網…（隻数：10隻 調査期間：平成元年2～3月）

漁場はすべて前沖で、延187回の操業であった。サクラマス887.7kg、アブラツノザメ321.8kg、の漁獲であった。

3. 魚体測定調査

標本船の操業海域でのスルメイカの魚群の性状を把握するため、期間中4回、245尾の魚体測定を実施した。特徴としては、外套長・体重とも三沢沖のものがかなり大型であったこと、交接率・雄成熟率ともかなり高かったことがあげられる。